

浦賀文化

平成22(2010)年1月1日

第21号

Email:uragabunka@yahoo.co.jp

編集・発行:横須賀市浦賀コミュニティセンター分館(浦賀文化センター) 〒239-0822 横須賀市浦賀 7-2-1 TEL&FAX 046-842-4121

歴史を物語る力作

浦賀駅前の絵画

浦賀駅から久里浜に向かう道の左側と観音崎に向かう道の右側に歴史の町浦賀を表わした十二枚の絵がかけられています。浦賀国際文化村推進協議会が平成十二年の咸臨丸フェスティバルのイベントの一環として作成、展示したものです。どのような絵がかけられているのか、添え書きされている文とあわせて紹介します。



浦賀国際文化村推進協議会の案内絵



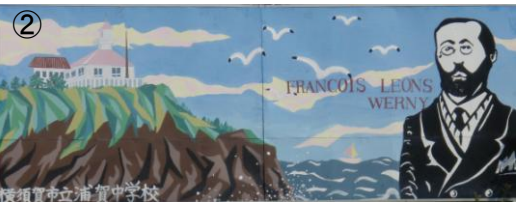
①「ペリーとサスケハナ号」浦賀小歴史絵委員会、嘉永6年(1853)6月、アメリカ大統領の国書を持ったペリー率いるサスケハナ号以下4隻の黒船が浦賀沖に姿を現した。このペリー来航により鎖国政策はビリオドをうち、日本の近代化はここに始まった。



③「勝海舟・福沢諭吉と咸臨丸」上の台中、日米修好通商条約批准交換の使節のお供として、安政7年(1860)1月、勝海舟を艦長にした咸臨丸は浦賀を出港した。福沢諭吉は軍艦奉行木村正毅の従者として乗り組んだ。日本人の手による最初の太平洋横断の航海であった。



⑤「中島三郎助と鳳凰丸」中島三郎助と遊ぶ会、ペリー来航により、幕府は軍艦の必要性を強く感じ、浦賀奉行所の与力・中島三郎助らに軍艦建造を命じた。安政元年(1854)5月、日本で最初の様式軍艦鳳凰丸は浦賀の地で誕生した。



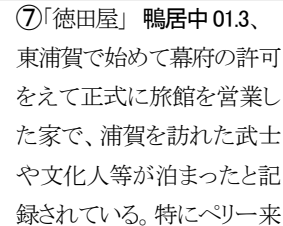
②「ヴェルニーと観音崎灯台」浦賀中、明治2年(1869)1月1日、日本で最初の洋式灯台である観音崎灯台が点灯した。開国後の条約で定められた船舶の航行安全を図るためのものであった。灯台建設には、横須賀製鉄所(後の造船所)の所長であり、技術者のヴェルニーの力によることが大きい。



④「榎本武揚・渋沢栄一と浦賀ドック」浦賀中、日本で最初の洋式軍艦・鳳凰丸の建造に貢献した中島三郎助の招魂碑の除幕式の列席メンバーによって「浦賀ドック」は創設され、この中心人物が榎本武揚であった。時を同じくして、西浦賀の川間の地に同様に造船所を創ったのは明治期の大実業家渋沢栄一であった。



⑥「雷電為右衛門」浦賀中、江戸時代から明治時代にかけて、三浦半島は相撲が盛んなところであった。とくに浦賀には、江戸大相撲の力士が度々訪れた記録がある。なかでも文化6年(1809)6月には、江戸大相撲でも無敵を誇った雷電為右衛門が来て、東浦賀の東林寺境内で興行をしている。



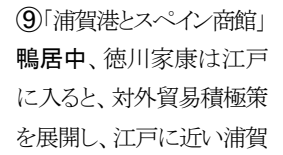
⑦「徳田屋 鴨居中01.3」東浦賀で始めて幕府の許可をえて正式に旅館を営業した家で、浦賀を訪れた武士や文化人等が泊まったと記録されている。特にペリー来航の時には、佐久間象山と吉田松陰らがこれからの日本のことを熱く語った場所である。



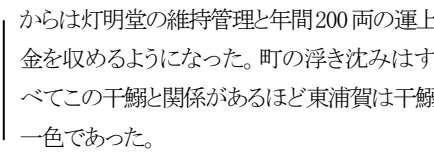
⑧「干鯛問屋」浦賀小01年度卒業生一同歴史委員会、干鯛(ましか)とは、鯛を天日でカラカラになるまで干した物で、畑、特に綿作りの肥料としては最適のものであった。浦賀の



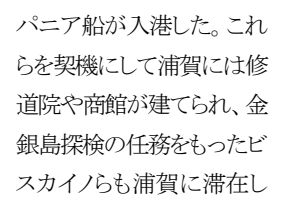
干鯛問屋は東浦賀のみにあり、江戸時代の初期には15軒であったが、寛永19年(1642)に30軒の間屋株が成立し、大変な繁盛ぶりであった。元禄5年(1692)



⑨「浦賀港とスペイン商館」鴨居中、徳川家康は江戸に入ると、対外貿易積極策を展開し、江戸に近い浦賀を貿易港とした。貿易の相手にはイスパニアを希望しており、フィリピンに使いを出している。この要望を受け入れて慶長11年(1606)と13年(1608)にイスパニア船が入港した。これら



からは灯明堂の維持管理と年間200両の運上金を取めるようになった。町の浮き沈みはすべてこの干鯛と関係があるほど東浦賀は干鯛一色であった。



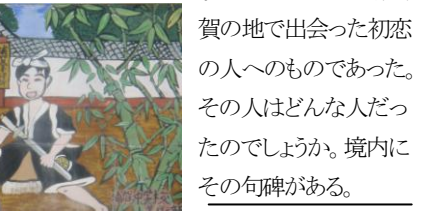
⑩「小林一茶と専福寺」上の台中、江戸時代の俳人・小林一茶が残した日記の文化3年(1806)6月1日の記事に、東浦賀の専福寺に墓参りに訪れたことが記されている。墓参は一茶が20数年前浦賀の地で出会った初恋



の人へのものであった。その人はどんな人だったのでしょうか。境内にその句碑がある。



⑪「虎踊り」浦賀中美術部、享保5年(1720)伊豆下田から奉行所が浦賀へ移転してきた。この時下田奉行所で足軽役として廻船の船改めをしていた下田の間屋も浦賀へ移転してきた。この下田の間屋が伝えたのが「虎踊り」であった。これに当時江戸で流行していた近松門左衛門の「国姓爺合戦」のストーリーを取り入れ、和藤内を登場させ、唐子の踊りを入れて浦賀風の「虎踊り」が完成した。現在は6月中旬の西浦賀四丁目(浜町)にある為朝神社の祭礼の折に演じられる県の無形文化財である。



この整備のために造られたドック。これが日本で最初のドック。これが日本で最初のドック。これが日本で最初のドック。

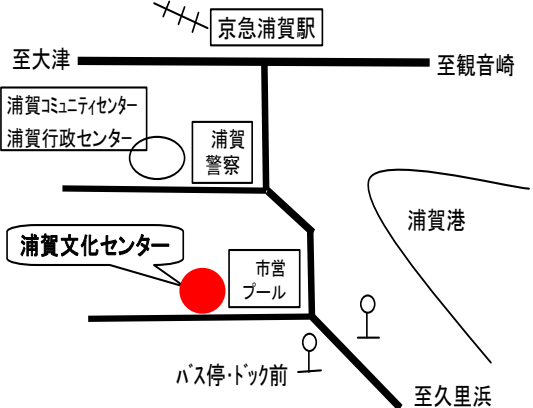
東西風

ペリーが来航して百五十年が過ぎ、日本は着実に近代へむけた歩みを進めていた。浦賀の町は外国との交渉の場からは外れていったが、徐々に形が出来てきた幕府海軍の基地の様相を呈してきた。日米修好通商条約が締結されると、その批准書交換のための使節が送られることになった。この機会に幕府海軍の腕試しにと供奉艦を送ることにになり、咸臨丸が行くことになった。この整備のために造られたドック。これが日本で最初のドック。これが日本で最初のドック。これが日本で最初のドック。

(山本)

浦賀コミュニティセンター分館 (浦賀文化センター)

浦賀駅から浦賀通りを徒歩10分



所在地:横須賀市浦賀7-2-1

電話: 046-842-4121 FAX: 046-842-4121

発行：横須賀市浦賀コミュニティセンター分館(浦賀文化センター) 休館日：年末年始 電話番号：046-842-4121

浦賀の植物

ハマビワ(クスノキ科)

大前悦宏 県植物誌調査委員会

浦賀や観音崎周辺は小規模ながら照葉樹林が残っている地域として知られています。その樹林の構成要素のひとつに、クスノキ科の植物があり、シロダモ、タブノキ、ヤブニッケイなどが数多く自生しています。公園や広場などに植栽されているものに、クスノキ、マルバニッケイ、ゲッケイジュ、ここで紹介します。ハマビワなども見られます。(クスノキは県内では厳密には自生ではありません。)

ハマビワは常緑の小高木で幹まわり二十五cm、高さ七m程になります。多々羅浜には生垣仕立ての一冊後に低く刈り込まれた十数株があります。またレストハウス近辺の水飲み場のそばに高さ二mくらい一株がみられます。ハマビワは雌雄異株ですが、ここには雄木も雌木もあり花も実も年中楽しめます。九月、十一月月上旬に淡黄白色の小

さな花を葉腋の散形状につけ、少し芳香もあります。雄花はおしべが花被(花びら)から長くつきでるので雄木とわかりやすい。花は三数性なので倍の数九〜十二個のおしべが三〜四輪に並び、内側一〜二輪のものは腺体を持ち、花被は筒状で六裂し、内外面ともに毛があります。仮めしべはごく小さく目立ちません。雌花の仮おしべは九〜十二個が三〜四輪ならびます。結実するので雌木とわかりやすい。液果は十一月下旬ころ緑青へと変わり、このまま冬を越し四月ころ暗緑青に変わります。六月頃になると黒い緑色へと変わり、九月十月には成熟し黒色となります。ビワの実というよりドングリに似ています。楕円形で長さ一・五cmほどの大きさで中に種子を一個もっています。果実は杯状に膨らんだ果床に包まれています。

ちようど穀斗(かくと)をもった「どんぐり」を想像してもらえばいいと思います。ある地方ではこの果実を子供らが鉄砲の弾にして遊ぶことから「テッポウダマ」の名があります。葉は枝先に集まり革質で厚く、葉の表は濃緑色となり少し光沢があり、葉の裏面は茶色の細毛が密生し葉脈が著しく隆起してビワの葉裏と似ています。何とんでも四月頃の新緑の芽立ちの様子にはビワのそれとそっくりに見えます。三年のトベラと比べて、葉をつけている期間が五〜七年と長いことや葉の厚さも内陸の植物に比較して約二倍の厚さといいい「エコ・エネルギーの節約により厳しい海浜の環境に適応しているもの」とも思われます。強風のもと、幹も樹形もまっすぐなものはありません。耐塩性植物にはハマビワのほかトベラ、マルバグミ、マサキなどがあります。が海浜植物共通の特徴が

備わっています。分布は山口県、高知県(四国の西南部)、九州。沖縄、済州島の沿岸地帯。アジアの熱帯・亜熱帯を中心に四百種。日本には三種が見られます。学名の種小名は japonica 日本という意で原産地のひとつを示しています。ハマビワの植栽可能地は関東から西といわれ、実生もよいといわれると、いまに自然植生分布域との境界線が温暖化も進行し、はつきりしなくなる恐れはないのだろうか。名の起りは沿海地に生えるビワ、淡褐色の毛の多い枝葉がビワに少し似ているかららしい。材は薪炭用、器具類、樹は沿海地の防潮林・防風林に植栽されます。



↑「ハマビワ」花と実

世界は一つ！文化と伝統を育んできた扇海の浦賀港とロンドンのテムズ川は、似た者同士？「スケールは違うが似ている！」

笑話一題

と云って感激した人物がいました。約400年程前に来日したイギリス人のサーリス司令官です。彼の折、家康の勧めでウィリアム・アダムスと共に商業港の浦賀に出向いています。彼の目に映った浦賀港の光景は、祖国イギリス、ロンドンの町を流れているテムズ川によく似ていました。船が安全に航行できる申し分のない港でした。

世界は一つ！2012年にはロンドンオリンピックが開幕します。新たな歴史を作るためにテムズ川は何を演出してくれるでしょうか？浦賀港も脚光を浴びる日が楽しみですね。「頑張れ浦賀港！」

第20回【特別企画展示会】のお知らせ

開催場所：浦賀文化センター

「咸臨丸と浦賀」～万延元年遣米使節 150周年～ 2月6日(土)～21日(日)10時～16時

荒波に挑んだ咸臨丸の偉業、乗組員の様子など浦賀と咸臨丸の関係を現わす展示会です。

また、レンガドック活用イベント実行委員会主催の「咸臨丸の生涯」と同時開催(元住重浦賀工場内)で、「日米修好通商条約締結 150周年」を祝うコラボレーションの展示会となります。

山本詔一さんの基調講演は、2月6日(土)

13時30分～15時、浦賀コミュニティセンター 集会室で行います。

基調講演、展示会ともに皆様のご来場をお待ち申し上げます。

なお、浦賀文化センターは準備と後片づけのため、2月3日～5日と22日は通常利用はできません。また、会期中の2月6日から21日までは教室の利用はできません。ご迷惑をおかけしますがご了承ください。



歴史 語り座・浦賀 二十一

郷土史家 山本 詔一

干鰯問屋窮地に

ほしが

浦賀奉行所を東浦賀に設置する。これに反対され、奉行所が西浦賀に置かれてから、船番所で廻船の改めが始まると、西浦賀に次々と問屋が開かれ、浦賀に新風が起つてきた。

それに引き替え東浦賀村では、それまで六十二石の村高でも、三浦半島一、いや相模国でも一、一の富裕な町を支えていた東浦賀の干鰯問屋の商売に大きな暗雲が垂れこんできた。

享保十五年(一七三〇)になると、その陰りは一層激しくなり、古來からの干鰯問屋の中に潰れるものが続出し、やむなく東浦賀で十三人を挙用して人数増強をはかり衰退に歯止めをかけようとしたが、資本力の乏しい新規参加の問屋では、劣性を挽回することはできなかった。浦賀に揚がる干鰯は江戸の1%にも満たないという惨状であった。

この時代、干鰯は「一村買」と言われて、来年収穫する鰯すべてを買い取る、投機的な商売になっており、当れば何倍もの儲けになるが、はずれると倒産の憂き目にあい、資本力がない者は次々に脱落していった。

元文期にはいと窮乏は一段と進み、元文三年(一七三三)秋、ついに江戸揚荷物の五分の一を浦賀に回してくれるように訴えたが、当然江戸問屋からの異議があり、町奉行も「商売のことは公儀から命令するものでなく、その上差しさわりのあるものであれば、双方でよく話し合いて決めるように」といわれてしまい、幕府の命令

でこの窮極を乗り越えようとした東浦賀問屋を失望させたばかりでなく、これを伝へ聞いた関西の問屋は、一斉に融資を止め、逆に取り立てに回り、最悪の状況になった。

元文四年になると「村中食物に差し支え、その日暮らしをしていた者は一飯も食べられない者もあらわれ、二月から五月にかけては、飢えのため病死の外はないとささやきあう有様で、衣服もなく、壁は破れ、一日中戸を閉め切つたまま」という状況で、港に停泊している船や近郷へ物乞いに出るといふ哀れさであった。

こうした状況であったので、干鰯運上金は元文元年から四年まで上納できず、さらに四年十一月には、四か年分の未納運上金を残らず上納せよとの強い命令が下った。

こうした状況を見かねた時の浦賀奉行一色宮内直賢は、東浦賀干鰯問屋の歎願書に添え状をつけて、勘定奉行所へ提出した。この訴えが認められ江戸問屋と浦賀問屋が召喚され、浦賀問屋は水揚げ量が最盛期の百分の一以下にまでなっている現状を訴えた。

(注)干鰯・鰯、ニシンを天目で二十日以上干したものを。鰯ニシンを茹でて絞った残りを天目で干したものを。粕、乾燥肥料として江戸時代の農業の発展に役立った。粕は飼料、醸造原料などにも使われた(広辞苑)。



東浦賀にあった干鰯蔵

東浦賀にあった干鰯蔵